

## 武蔵野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に係る考え方

### I 基本的な考え方

- 計画期間中に団塊の世代が全員75才以上となる2025年を迎えること。
- 高齢者人口がピークを迎える2040年を見通すと、要介護高齢者が増加する一方、生産年齢人口が減少すること。
- 地域包括ケアシステムの深化・推進や介護人材の確保、介護現場の生産性の向上を図るための具体的な施策や目標を検討した上で計画を定めること。

### II 基本指針見直しのポイント

1. 介護サービス基盤の計画的な整備
  - ①地域の実情に応じたサービス基盤の整備
  - ②在宅サービスの充実
2. 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組み
  - ①地域共生社会の実現
  - ②介護事業所間、医療・介護間での連携を円滑に進めるための医療・介護情報基盤の整備
  - ③保険者機能の強化
3. 地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び介護現場の生産性向上

※ I及びIIは、第9期介護保険事業計画の基本指針（大臣告示）のポイント（案）（令和5年2月27日 第106回社会保障審議会 介護保険部会 資料1-1 基本指針について）より引用

### III 計画策定にあたり検討すべき主な事項（案）

1. 介護予防の推進と、多様な資源を活用した地域づくり
2. ひとり暮らし高齢者等を支える見守りや生活支援サービス
3. 共生と予防の考えに基づく、認知症高齢者とその家族を支える取組み
4. 中長期的な介護ニーズと社会状況の変化に対応した計画的な施設整備
5. 在宅医療・介護のさらなる連携強化
6. 介護人材確保・定着と介護現場の生産性向上の取組み